



人を思いやる、
 ということの意味が
 胸に沁みみた。

かんぽの宿阿蘇 河崎秀行

万感の思いがこめられた、手製の感謝状。



思えば反抗的な子どもだった。と、河崎秀行さんは自らを振り返る。人と相對するの苦手だった。それが、縁あって接客業に従事し、「かんぽの宿阿蘇」のフロントに携わるようになり、自分でも不思議なほど仕事が楽しくなってきた。訪れる客は高齢者が多い。「祖父母と同居していたので、ごくふつうに接することができたのかもしれない」。もともと心根の優しい少年だったのだ。

そして熊本地震。真夜中、自宅から駆けつけ、夜が明けるとつれて、これは只事でないと思える。避難してくる人が続々と増える。ロビーの椅子に仮眠し、無我夢中で対応した。そうしたなか一台のトラックがやってきた。福岡から自主的に支援にやってきた市民だ。個人だから支援物資はけっして多くない。だが、それを受け取ったとき全身が震えた。感動とはこういうものか、と生まれて初めて思った。ほとんど食べ物らしい食べ物を口にせず、最後の一人が帰るまでここを離れるまい、「自分の勝手な決め事ですが」そう決めた。大きなサプライズが待っていた。そろそろ避難所の役割も終えようかというころ、一枚の紙を見せられた。避難していた人びとの寄せ書きの感謝状である。「生意気な子どもで涙など流したことなかったんですが」、ポロポロ泣いた。

人の力を
 信じる。

阿蘇の誇りと実りのブランド

Aso City
 阿蘇